

(別紙4(2))

事業所名 グループホームあいの街家代

## 目標達成計画

作成日: 令和元年 3月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所理念の職員間の共有方法、職員への意識付け、評価の方法が確立していない。	職員一人一人があいの街家代の理念を即答できること、理念に基づいて具体的な目標をたて、行動できる	ミーティングの際、事業所理念を復唱する。毎月目標をたて、次の月には評価をする	3ヶ月
2	35	入居者の重度化が進む中で、避難について、特に職員の少ない夜間を想定した訓練が実施されていない。	少ない職員数の中でも職員一人一人が的確に状況判断ができ、避難ができる	夜間想定避難訓練を行う。そのほか入居者一人ひとりの避難方法を机上訓練にて検討する。また、火災の時には初期消火が重要であることから、消火器の位置の確認、災害時の備蓄の確認等避難訓練の際確認する	3ヶ月
3	35	民生委員、区長からは災害時に「協力体制を取る準備はしておく」との言葉はいただいているが、具体的にどのように連携を取るのか決められていない。また、地域密着型サービスの施設として、地域に役立てることはなにか確立していない。	地域との関係性、情報交換を密にして助けてもらうばかりでなく、職員側からも何かしら地域に協力できることを具体的に	運営推進会議の際、実際に災害が起こったときにどのように協力を依頼するのかを話し合う。また、個人情報には配慮しながら、入居者の身体の状況については報告をする。施設側からでもできる事の提案をする。	3ヶ月
4	6	身体拘束適正化の書面方法をマニュアルにもとづいて記録へ残されていない	身体拘束廃止委員会、職員全員で検討、拘束の解除を話し合い、記録に残るようにする。	マニュアルの内容を理解しきれていない部分があり正しく身体拘束の適正化を行い記録をする。	6ヶ月
5	36	入居者の呼称について家族、本人へ確認をていない。	職員間で入居者の呼称を統一する。	入居者との距離が近すぎる事なく、よそよそくならないよう家族、本人へ呼称の相談、確認をする。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。